

1～4年次前期・選択

2単位・30時間

---

---

**【概要・目的】**

わたしたちは日常的に、ほとんど意識することなく、様々な物事を比較・分類し、線引きを行うことで秩序を構築しながら暮らしている。本講義では、我々を含め、世界の様々な地域で暮らす人々が、分類や線引きを行うことで「文化」を作り出していること、またその分類や線引きが、時代とともに不明瞭になったり、変化したりしうることを理解する。

---

**【到達目標】**

- 1) 当たり前を疑うという文化人類学的な視点を身に着ける。
  - 2) 物事を多角的に捉える力を身に着ける。
  - 3) 身近な出来事を抽象的な概念と結び付けて捉える力を身に着ける。
- 

**【内容・スケジュール】**

- 1) イントロダクション：文化・分類・境界
  - 2) きたなさの正体 (1)：分類と秩序
  - 3) きたなさの正体 (2)：分類と境界
  - 4) 人間のライフサイクル：人の一生と通過儀礼
  - 5) 人間の生 (1)：妊娠という経験
  - 6) 人間の生 (2)：出産という経験
  - 7) 人間の死 (1)：伝統的な生と死
  - 8) 人間の死 (2)：現代における生と死
  - 9) 身体は誰のものか (1)：人格のありか
  - 10) 身体は誰のものか (2)：臓器移植から考える
  - 11) 呪術と科学 (1)：藁人形は非科学的？
  - 12) 呪術と科学 (2)：呪術のリアリティ
  - 13) 男と女 (1)：セックスとジェンダー
  - 14) 男と女 (2)：境界に生きる人々
  - 15) まとめ
- 

**【評価】**

平常点 (50 点)、レポート (50 点) で総合的に評価する。平常点は授業への参加態度、授業毎に提出する小レポートにより評価する。レポートについては、講義で扱ったテーマの一つを取り上げて、自分の身近な事柄と結び付けて考察してもらうことを予定している、

---

**【教科書】**

授業ごとにプリント・資料などを配布する。

---

**【推薦参考図書】**

波平恵美子編『文化人類学—カレッジ版』第3版, 医学書院, 2011年.  
浮ヶ谷幸代著『身体と境界の人類学』春風社, 2010年.

---

**【その他】** オフィスアワーはもうけないが、質問などは各授業後に随時受けつける。